「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course（第２回研修会）」開催要項

１．趣　旨　　若手・中堅教員等が、学校や地域の教育諸課題の解決に向けた実践と省察、課題研修やピア・サポート等を行うことにより、ミドル・スクールリーダーとしての資質能力の向上を図るとともに、教職実践課題の解決力、省察力の醸成を図る。

２．主　催　　独立行政法人教職員支援機構、　同　山口大学センター
山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻（教職大学院）

３．共　催　　山口県教育委員会

４．開催日時　　令和７年８月３０日（土）１３：００～１７：００

５．開催場所　　山口大学教育学部「21 番教室」（講義棟２階）
〒753-8513　山口市大字吉田 1677-1　　Tel:083-933-5300

６．参加者　　教職経験 3～20 年目頃の教員、教職大学院生、大学教職員、教育関係者等

７．研修内容
(1)開会行事　　(13:00～13:10)
あいさつ　　山口大学大学院教育学研究科　研究科長　　中　田　　充

(2)ちゃぶ台対話　(13:10～14:40)
テーマ　　「力のある人材（特に若い先生たち）を育てるとは？」
ＦＴ　　山口大学センター、山口大学教育学部・教育学研究科等教職員

(3)講義（演習）　(14:50～16:50)
テーマ　　「初任・若手教職員の成長を支える（仮題）」
岐阜県大垣市立興文中学校　　校長　　日　比　光　治　さん
前　岐阜県教育委員会西濃教育事務所　所長
元　岐阜大学大学院教育学研究科教職実践開発専攻（教職大学院）　准教授

(4)閉会行事　　(16:50～17:00)
あいさつ　　教職員支援機構山口大学センター　センター長　　和　泉　研　二

８．「感染症法（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律）」にもとづく取扱（お願い）
(1)本研修の実施においては、主催者として、「感染防止の５つの基本（厚生労働省 ADB,2023.3.8）」による感染予防に努めるとともに、受講者一人一人に感染防止に向けた責任ある行動を求める。
(2)研修地域や受講者居住地の感染状況や推移、研修関係者の意向等をふまえて、研修形態を「対面・参集型研修」から「オンライン研修」等に変更する場合がある。

９．その他
(1)本研修事業は、独立行政法人教職員支援機構地域センター（山口大学センター）事業経費により運営される。

ちゃぶ台次世代ステップアップ研修講座「学級（会員）通信」
（ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course）
No.1　2025.6.26
教職員支援機構(NITS)山口大学センター・山口大学・山口県教育委員会

if you want to go fast, go alone; if you want to go far, go together!

ちゃぶ台次世代コーホート Advanced Course スタート!

ご存じでしたか？データサイエンティストでエコノミストでもあるアンドリュー・ホイットビー（Andrew Whitby）が、ケニア在住の牧師から「元々はブルキナファソの諺」と紹介され（起源はアフリカ外説を含め諸説あり）、岸田文雄元首相が自身の所信表明演説でも引用した諺**「早く行きたければ一人で進め。遠くまで行きたければみんなで進め。」**　いつも雑な仕事ぶりの事務局には頭が痛い「お叱り」ですが、そう…まさに…「ちゃぶ台」はみんなで進みたいのです。

6 月 14 日、現職教職員 22 人、教職大学院生 13 人、託児担当 2 人、県教委・大学関係者 22 人が集まって「第 1 回研修会」を行いました。「ちゃぶ台らしさ」に溢れた研修会の概要を報告します。

ちゃぶ台ワーク　自己に向き合い自己を開く＋多様な他者との対話をとおして気づく

「研修びらき」は、「めざす子ども像」を題材にした「自分発 → 自分+みんな行き」のちゃぶ台ワーク（振り返り・対話・新たな気づきによる自他との新たな出会いと Cohort づくり）です。

事前探求課題（宿題）も全員が準備して。さすがに経験豊かで、知識やスキルに精通し、意識や意欲も高い人たちの集まり！　省察や対話の切り口や語り口はみんな違いますが、その「違い」こそ「宝」。自分なりの教育理論（内なる理論）の炙り出しや交え合いを楽しんだ 90 分でした。

参加者のコメントから

年齢や経験、校種といった違いもありますが、教員ごとに様々な考えがあることを実感しました。様々な考え方があるのは大事なことですが、「ちゃぶ台」のように考えを伝え合って、磨いていくことが求められます。以前、先輩教員から「教員はみんな自分が正しいと思っている」と言われたことが強く印象に残っていますが、自分よりも高い「価値」をもっている先生との出会いが教員人生を変えると私は思います。（中学校）

大学教員は、自分が研究したい理論に盲目的になりがちですが、「理論なき実践は盲目であり、実践なき理論は空虚である」のとおり、現場に役立つ実践のための理論なのかを熟考する必要があると思いますし、学校現場の実践から理論を見出すことも重要であると考えます。教師と子どもの学びには、既成の理論では説明しきれない理論が暗在していると考えるからです。「ちゃぶ台」は様々な背景の教育者とかかわることで、自分自身の価値観を問い直し、これからの教育を考えることのできる絶好の場を提供してくれると思います。今後も、積極的に参加したいと思いました。（大学）

興味深かったのは、誰も初めには選ばなかったような子ども像が対話の中から生まれてきたことである。対話を通して、新たな価値観や視座を得ることができたことは、単なる意見交換ではなく「共に問い直す場」としての「ちゃぶ台」協議の意義を感じさせた。この経験を通して、教育における「対話」の可能性と重要性を実感した。異なる立場・視点の人と対話をすることで、自己の考えを相対化したり、視野を広げたりすることができる。今後の教育実践の中でも、こうした対話的な学びの場を生徒同士、あるいは教師間でも意識的に取り入れていきたいと感じている。（学部卒院生）

経験からくる直観(直感)は、「内なる理論」があるからこそ働くものであり、普段の授業などの実践は全て、理論を検証するための経験的なデータであるという考え方が大変勉強になった。実際には、忙しさを理由に実践の振り返りや思考を放棄しそうになったり、実践が終わると満足してしまうことも多いので、「理論の無いやみくもな実践」にならないよう気をつけたい。そのために、日頃から「内なる理論」の構築という視点を持って実践に臨み、定期的に理論を再検討する姿勢を持つよう心がけたい。（大学）

どのような子どもに育って欲しいかについて議論したが、あのリストの選択肢がなんだかもやっとしている。むしろそこにのっていない子どもの姿が議論の中に出てきた。それぞれの教育観を話し合うのは面白い。でも大人がその子ども観を押し付けてはいけないし、型にはめるのも何か違うと思う。特にこの急速に変化をし不確実性が高まる社会において、教員が育ってきた環境や社会が大きく違う。また、スマホや AI 等身の回りにあるものが圧倒的に違う。そのような環境において当然普遍的で不易なものがある。でも子ども中心に考えると子ども達自身がどういう人でありたいのかということを学級活動や様々な対話の中で一緒に発見していきたいと考える。それぞれの子どもに特性があり得意不得意があるので、そのことに子どもたち自身が気づいて伸ばしていったり補っていくということができるとその子のその後の充実した人生につながると考える。大人のこうなってほしいという願いや理想は大切だが、押し付けるのではなく、子どもがそれに気づいてその力やコンピテンシーを大切にしようという学級経営をしたいなと思った。（高校）

大学の先生方、教頭先生、院生と全く異なる立場の方ばかりで、話していてとても楽しかったです。「本音で語り合う」ということについて、「これまで本音で話せないことが多くて、何が本音か分からなくなった」と言われていました。その言葉をきっかけに、確かに「本音」って何だろうと思わされました。私は、基本的に思ったことを何でも伝えてきたので本音で話していたつもりでしたが、何かを話しているときにも、頭の中では色々なことを確かに考えています。それらを全て話していたかというと、そうではありませんでした。たくさん考えていることの中から、いくつかを選んで話しています。それを選ぶ基準って何だろう、じゃあ本音って何だろう、全てを話すってかなり難しいのでは…？等、色々なことを考えました。今年度、学校の研究主題に「対話」が入っています。研修主任として、先生方に対話について考えてもらったり、授業で対話を通して学べるようにしたりしています。今回のように、自分の中にこれまで当たり前にあった何かを問い直し、考え始めるきっかけになるような対話を、授業でも研修でもつくっていきたいと思いました。（小学校）　今回も素敵なレポートがいっぱい(^^)　ありがとうございました。

講義　令和7年度山口県教育の重点と教育予算

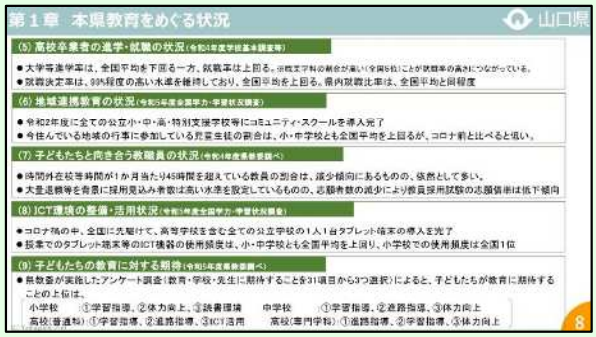
山口県教育庁教育政策課教育企画班　班長　灘　貴之　さん

山口県を中心とする地域の教職員の養成・研修を中核的に担う大学（学部・研究科）と NITS（山内大学センター）と山口県教委の主催研修ですから、初回テーマは山口県教育です、ハイ(^^)　灘班長さんには、山口県教育振興基本計画、本年度重点施策に加えて県や教育委員会の予算についても教えていただきました。温かさと包容力が滲み出て、ソフトに丁寧に語られる班長さん。議会等が続くこの時期、貴重なご講義をありがとうございました。

参加者のコメントから

毎年、この話があると「あ、ちゃぶ台が始まったな」という実感が湧く。以前は漠然と聞いていたものが、毎年聞いていくうちに、「あ、去年から変わった。」「昨年度の研修会での話はこれにつながってたのか」など理解できている自分がいることに気付かされる。大変なご苦労があって、教育や予算が成り立っていることを知り、襟を正して今年度も頑張ろうと再確認させられた。（小学校）

講義では教育予算についての話があった。予算についてはこれまで学んだことがなく、予算の使われ方や予算編成のスケジュールなど今回の講義で新しく得た学びが多かった。特に印象的だったのは、県教育委員会の予算を経費別内訳で見ると、教員の給与関係経費が８割ほどを占めていたことだ。それだけ教員の人材育成に力を入れられているということを知ったと同時に、教員として自覚と責任をもって仕事をしなければいけないと感じた。（学部卒院生）



特に ICT 使用頻度が全国１位という山口県教育に関心を抱いた。教育施策に従順な学校現場の先生方の

努力の賜物だと考える。しかしながら、グループでの先生方のお話によると、ICT 機器のソフト面の改良がなされておらず、ハード面だけが残って宝の持ち腐れの状態になっているという。さらに、教科によって ICT 機器の必要性の度合いは変わるという。ICT を使うことが目的ではなく、教科等の本質的な学びに寄与する使い方に重点を置いていかなければならない。そろそろ、ICT 教育を精査する段階に入るべきではなかろうか。（大学）

今年度の重点施策を（一般会計）予算とともに知ることができる機会があったことは大変貴重だと思います。今の山口県教育がどのような背景で方針が示され、どのような方向へ向かっていっているのかを知ることは、まさに「自分の内なる理論」の枠を変えていくことに繋がるとも思います。これまでの経験のみに頼り、「これまで大丈夫やったけえ、このままでええやろ」という感覚のままでは、日々変化していく教育情勢に対応していくのは難しいと思います。何も知らないままなのと、「今、県がどのような方向へ向かっていっているのか」をふまえて業務にあたることは違います。予算の中で最も「教育」に予算が割り当てられていることを「知らないまま」では、きっと県の施策に対して一面的な見方に偏ってしまっていたように思います。県の動向をふまえ、「自分なりの教育理論」の枠を広げていきたいと思いました。（中学校）

予算の話でお金を取ってくる、何処かから捻出するという発想を教員は持つべきだと思う。高校で探究をやるときに外部連携をしたいと言っても予算がなく、ボランティアで専門家に学校に来てほしいというのは心苦しいし、 地域の人にお願いをするというのも 本当にお願いばかりになる。もちろん協力してくれる人がいればそれでいいが、何か違う気がしている。だからあらかじめ予算立てして、それを使うということはとても大切だと思う。連携先の人たちは人的資源なのだから、学校がお願いをすればやってくれるだろうという意識でいてはいけない。特に高校レベルになればビジネス的な発想で報酬をきちんと払うということも必要だと感じている。無償でやってくれるという業者もたくさんあるが、それゆえにそこにしか頼めないということでは特色がある教育はできない。教員もこの人に話をして欲しいであったり、この人と生徒を出会わせたいという意識で予算を効果的に使うということも考えると、教育活動が面白くなると思う。

そして、予算の枠があった時になんとなく使って消化していくのではなく、きちんと適切かどうかを判断をし、どのような効果が期待できるかを考えて使っていくという発想をしなければいけない。これもビジネスの発想できちんと経理をやらなければいけない。教員ばかりがそれをやるのではなく事務室はきちんとお金の処理だけではなく、そのような部分で教育活動に協力する体制が必要だと思う。この辺りでコストパフォーマンスやタイムパフォーマンスを意識する人でありたい。

教育振興計画の話で、子どもの声を取り入れていて特色があると言うが、子どもがそれを知っているということはとても大切だと思う。ただ知っていてアンケート等に答えただけでは意味がないと思う。子どもが計画作成に参加をしたのであれば、実施の際にも子どもがある意味先頭になって動いていけるといいと思うし、その後の振り返りや反省においても子どもの意見を取り入れていく視点が必要だと思う。それにより自分がどのように育てられているのか、どのような環境で育っていくのかということを子ども自身が考えられるのでとてもいいことだと思う。最高の主権者教育だと思う。（高校）

山口県として、目標や育てていきたい力がとても分かりやすくまとめられていて、さらに子どもと共有できるようにされていました。それを現場の教員はどれだけ知っているだろうかと感じました。その目標達成・力の育成のために、ICT を活用したり探究的な学びを展開したりすることが求められているのだと改めて学びました。学校の環境整備や教員の働き方等も、重要視されており、そこを現場が同じ熱量で考えられているのかなと考

え直させられました。次期指導要領改訂に向けて様々な協議がされており、山口県の教育も同じように動いていることを感じました。その情報をきちんとキャッチして、学校の先生方に伝わるようにかみ砕いて整理して、伝えていかなければならないなと感じました。学校として今している教育活動を、山口県の様々な目標や計画、取組と照らし合わせ、その価値や見直すべきことを洗い出したいと思いました。（小学校）

みんな「しびれます」ね！　レポートに迫力があって。　さすがです！　ありがとうございました。

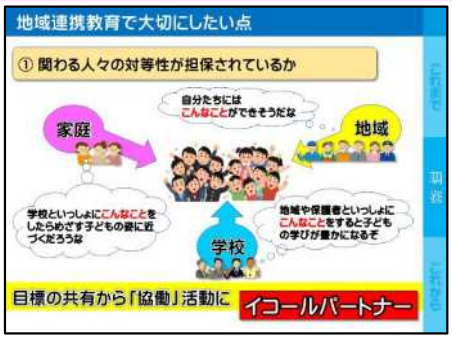
講義　山口県地域連携教育の現在地

山口県教育庁地域連携教育推進課 教育調整監　　一 島　圭 さん

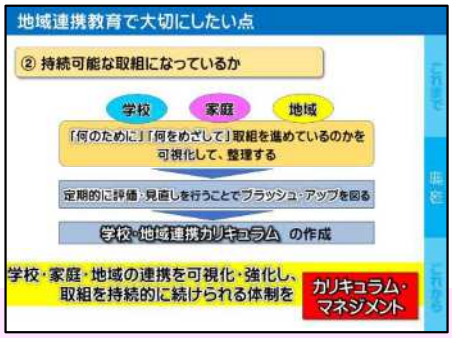
山口県教育と言えば…「地域連携教育」。平成 28 年度には全公立小・中学校が指定され、平成 23 年度には地域協育ネットも稼働して。その「現在地」をどう評価したら良いのだろう？一島教育調整監（班長）さんには、地域連携教育の「これまで」と「現在」と「これから」について、豊富な資料、データや国の動向等もふまえて教えていただきました。元気ハツラツの班長さん、ありがとうございました。

参加者のコメントから

学運協設置 100%から5年以上たち、今一度「なぜ地域連携教育なのか」を教職員そして地域の大人、何より子どもと共有していかなければ、当事者たちが本当に意義を感じ、必要だと求めて行う取組にはならないと実感している。それがないと、理想と現実のはざまで、やらされ感や負担感が目立ってしまう。だからこそ、今やっていることを整理し、持続可能な形、体制をつくっていくことが、「今」そして「これから」の学校には求められているのだ。県としては「人口減少の克服」が県政の最重要課題として長期目標としてあるが、自分たちのいる市町村は、そして自分のいる中学校区は、なぜ、何のために、だから何を長期目標とし、短期目標で何を、誰が、どのように進めていくのか、これを「学校・地域連携カリキュラム」を真ん中において、自分事として対話をしながらカリキュラム・マネジメントをより多くの当事者で行っていくことが大切ではないかと考えた。（小学校）



今回の講義では、「人と人とのつながりを大切にするには自己開示が大切である」という話が冒頭にあった。私は、この考え方は地域連携教育にも通じるものだと感じた。学校と地域の連携を深めるためには、まず学校が自己開示をし、地域に対して積極的に情報を発信していくことが重要である。たとえば、学校だよりやホームページなどを通じて、児童生徒がどのような活動に取り組み、どのような教育目標に向かっているのかを地域に伝えることで、地域の人々の関心や信頼を得ることができる。こうした積み重ねが、より効果的な地域連携教育の土台となると考える。また、今回の講義で特に印象に残ったのは、「関わる人々の対等性が担保されていることが大切である」という点である。これまで私は、地域連携教育は学校の教育力を補うものという印象を持っていた。しかし、地域連携教育の本質は「協働」であり、学校と地域が目標を共有し、対等なパートナーとして取り組むことが求められていることに気づかされた。互いに学び合い、双方にとって実りのある関係を築くことが、持続可能な連携に繋がる。ここでもやはり、信頼関係が不可欠であり、そのためにも学校の自己開示や地域との対話が重要になる。さらに、地域の人々が教育活動に積極的に関わる姿を児童生徒が身近で見ることは、「ふるさと山口の未来を創る心意気」を育む上でも意義がある。地域とともにある教育を体感することで、児童生徒自身が地域に誇りと愛着を持ち、将来の地域づくりに主体的に関わろうとする意欲が育まれると考えている。何よりも、地域連携教育の中心に据えられるべきは常に児童生徒であるということを忘れてはならない。学校と地域が同じ目標のもとで連携し、児童生徒の学びと成長を中心に据えた教育実践を行うことが、真に意味のある地域連携教育であると学んだ。今回の講義を通して、地域とのつながりの重要性と、それを築くための具体的な視点を得ることができた。（学部卒院生）

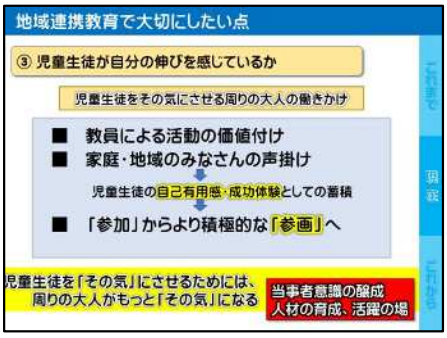


講義を通じて、地域連携教育が重視される背景として、人口減少や地

域社会の教育力の低下、子どもの貧困や不登校といった複雑化する教育課題があると学びました。これらに対して、学校だけで対応するのではなく、家庭や地域、企業、大学、NPO など多様な主体と協働しながら、社会総がかりで子どもたちを支えていくことの重要だと分かりました。講義の中では、特別支援学校や高校における具体的な実践事例も紹介され、障害のある子どもたちが地域とともに学び、地域に貢献する姿や、高校生が地域の課題解決に主体的に関わる様子から、「地域とともにある学校」の在り方を学びました。また、地域連携教育とは単なるイベント的な地域参加ではなく、地域全体を教育資源と捉え、子どもたちの生きる力を育てる教育そのものであると感じました。（学部卒院生）

異動して、あまりというよりほとんど地域と関わる学習がないという学校になりました。他の学年の様子を伺ってみると、総合も体験学習や調べ学習で終わりという感じであり、前任校とのギャップがかなり大きいです。また、学運協にも一部の教員しか参加せず何が話し合われたのかはよく分からない、学校に協力してくださる地域の方の顔を元々いる教員もよく知らない、小中連携の取組もゼロでその組織すらない状態です。今年、できる限りのことを進めていきたいという思いがあります。そのような思いの中で今回のご講義を聞かせて頂きました。

何より地域連携教育の魅力や良さを改めて感じました。子どもが各教科で学んだことを実際に活用し、それを様々な人と関わりながら活動していける豊かさは、地域連携でしか生み出せないと思いました。その良さをいかに先生方に伝え、負担感を感じさせないようにしていくのかが大切なのかなと思うとともに、山口県も国も目指しているのはそちらなのに、面倒だから大変だからと抗おうとする人たちに打つ手は少ないなとも正直なところ感じました。まずはそんなことを楽しめる仲間を少しずつ校内に増やしていきたいです。少しでも前向きに取り組んでくださる方が増えるよう、まずは今回学ばせて頂いた良い事例、前任校で取り組んできたこと、カリマネの考え方などを職員室に還元していこうと思います。（小学校）



今後の山口県の教育において地域連携教育は必要不可欠であることを学んだ。加えて、班での話し合いの中で、私はこれまで地域連携教育に対して誤解している部分があったことに気付いた。これまで私は、地域連携教育では、学校側が地域に協力・支援してもらうことが多く、地域側のメリットがあまりない状態なのではないかと考えていた。その上で、継続的な地域連携教育の実現のためには、地域の方や企業側も、地域連携教育に参画するメリットを感じられるような取り組みや発信が必要だと考えていました。しかし、今回同じ班の先生から、メリット・デメリットは度外視で、積極的に学校に関わりたいという地域の方々のニーズは多く、その上で、そのような潜在的なニーズを感知し、学校とマッチングさせる仕組みが重要であることを教わった。これまで、地域連携教育の価値づけばかりを考えていて、既にあるニーズの発掘や、そのニーズと学校とのマッチングという視点は欠けていたが、学校という組織の特性を考えると、メリットがあるから関わってもらうという形より、関わりたい人と学校とのマッチングという形の方が、よりストレスなく継続的な地域連携教育が実現できそうだと感じた。（大学）

私は、地域連携教育の現状について教えていただく中で、「児童生徒が自分の伸びを感じているか」という視点も大切だということを知った。活動を通して、児童生徒が自分の良さに気付いたり、自信が持てたりするには、活動に対しての課題意識や、「自分はこうしたい」という熱意が必要であると考える。そのためには、周りの教員や地域の方が「子どものやることだから」と思うのではなく、子どもも地域の一員として何ができるのか共に考える姿勢がまず大切だと考える。私は今回、「子どもが地域の先生プロジェクト」に参加させていただく。これまでのプロジェクト内容をみると、子どもだからできることも沢山あるように感じた。プロジェクトが終わった後に、少しでも子ども達が「自分達ってやればできるじゃん」と思えるよう、サポートしていきたいと思う。（学部卒院生）

今年、初めて学校運営協議会を参観させていただき、そのあとにこの講義を受けたため、より深く理解するこ

とができた。これまでに地域との交流や、防災教育等取り組まれていることは知っていたが、その根底に地域連携教育の考え方があり地域と共に子どもを育てていく、地域に特別支援学校の子どもたちを知ってもらうという大切な意義があることに気づかされた。特別支援学校の子どもたちは、市内各地からバスで登校してくるため、市内様々な場所に散らばって暮らしている。一般の小学校のように地区ごとのまとまりはないが、市全体として障害がある子を育てていくという大きな輪を意識していかなければならないのだと思った。（総合支援学校）

「ふるさと山口」の未来を創る心意気はシビックプライドにあると考える。「山口に生まれ育ってよかったな」という郷土愛が、山口県からの人口流出を防ぐ鍵になろう。ただ、その土地のよさは外に出なければ分からないこともある。一人の人間をその土地から出さないようにする仕組みというのもどうかと思う。シビックプライドを育成すれば、大学卒業後は山口県外に出るとしても、数年経って「山口で働きたい」という U ターンが期待できる。長い目で「ふるさと山口」に戻る心意気を育成する必要があるのではなかろうか。（大学）

現場の「リアル」を感じているからが故のレポートの数々、説得力あり！　ありがとうございました。

事前課題（アンケート）へのご協力、ありがとうございました！ お返しします！

①学校と地域の連携・協働の意義や必要性
②学校と地域の連携・協働に関する法令理解や国・県の動向
③連携・協働の仕組み（コミュニティ・スクールや地域学校協働活動・本部等）
④連携・協働の取り組みと学校の教育目標・課題との関わり
⑤連携・協働の方針や年間活動計画の作成
⑥自校の教職員との共有、合意形成
⑦自校の子どもたち（児童生徒）との目標、目指す姿や計画等の共有
⑧自校の学校運営協議会の役割、構成、形態や協議内容
⑨教職員が地域を知ることの意義と自校区の地域資源（人・もの・こと）の実際
⑩連携・協働した教育活動の教育的意義と地域連携カリキュラムの作成
⑪連携・協働した教育活動のつくり方
⑫地域との交渉や依頼の仕方
⑬自校や他校の地域と連携・協働した教育活動の実際、先進例
⑭自校の子どもたち（児童生徒）への参画の働きかけと実際
⑮学校の情報発信の重要性と在り方
⑯学校と地域の連携・協働の評価
⑰学校と地域の連携・協働の拡充に向けた環境や施設
⑱地域（PTA や地域組織・団体等）との目標、目指す姿や計画等の共有と参画への働きかけ
⑲地域（家庭や地域社会）との信頼関係づくり
⑳地域づくりへの参画と学校としての貢献方法

各学校の「現在地」を冷静に見つめて、「今こそ、学校、教職員として共通理解すべき、研修すべきと考える内容は？」をお尋ねしました。「（アンケート等は）聞いたからには結果を返すはイロハのイ」ということで単純集計結果（n=48）ですがお返しします。何かの参考になれば。ありがとうございました。

その他のコメント、メールから

「ちゃぶ台」への思いもいただきました。お気持ちが嬉しいです。ありがとうございました。

会場などの運営に関わることができずにすみません。ただ受講するだけでなく、その裏に多くの先生方のお気遣いがあり会が成り立っていることを捉えるためにも、運営に携わっていくことは必要だと思っています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

10年以上前からここは「自分が学生時代の志に立ち戻れる居場所」のような位置づけでもあります。多くの先生方の熱い教育への思いを聞きながら充電し、教師自身の次への学びの活力を高められる、大変貴重な場です。こうした場がさらに続いていくことを願っており、そのためにも自分も力を尽くしていきたいと思います。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。（中学校）

託児サービスも提供しています！ ご利用ください！ 託児スタッフさんに感謝です！

教職員対象の研修会で「託児サービス」がついていたものは無かったと思います。土日開催のプログラムだからということもあるのでしょうが、子育て中の教職員にとっては大変有り難い、助かると思います。学びたいという気持ちがあっても、預け先がなかったり、親が近くに居なかったりで困ることはあると思います。担当してくださる方は大変と思いますが、ぜひ続けてほしいと思いました。（メールでいただきました。ありがとうございました。）

次回は8月23日の予定でしたが、8月30日に変更になっています。
ご注意ください。 7月中旬頃に「開催要項」等を送ります！

「ちゃぶ台次世代コーホート Advanced course ・ Basic course」

令和7年度計画

主催：山口大学（教育学部・大学院教育学研究科・NITS山口大学センター）　共催：山口県教育委員会・山口市教育委員会

リーダー養成研修への自主的・自発的参画をとおして、
自ら学び取る・磨きあう・他者や学校を変えていける「自分」をつくる

教育委員会と連携・協働し、教員養成・採用・研修の一体的推進を図る「各ステージリーダー養成」プログラム

コーホート（cohort）の意味

「同一の性質を有する同年齢集団」→　教職という立場や志でつながる同年代の仲間たち

ちゃぶ台次世代コーホートの基本

・学生、現職・大学教職員、教委関係者等による教員養成・教職研修の接続プログラム
・自主的・自発的な実践・研修意欲を尊重した各ステージリーダーの育成
・週休日を中心とする年間10回の連続・積み上げ型研修の実施（6月～3月）
・参加者が、それぞれの立場から、或いは立場を越えて協働し、実践と省察の往還、対話（開示・承認・共有・解明等）をとおして自立した個として成長し続ける

教育委員会と連携・協働し、教員養成・採用・研修の一体的推進を図る「各ステージリーダー養成」プログラム

大項目	中項目	小項目	ステージ0【理解】	ステージ1【実践】	ステージ2【協働】	ステージ3【リーダーシップ】
教職に必要な素養に関すること	1 コミュニケーション		○ 円滑なコミュニケーションにより、良好な人間関係を構築する必要性を理解している。 ○ 組織や悩みを相談し、チームで対応する必要性を認識している。	○ 他の教職員、児童生徒、保護者等と積極的にコミュニケーションをとっている。 ○ 組織や悩みを相談・共有しながら、自らの実践力を磨いている。	○ 他の教職員、児童生徒、保護者等と円滑なコミュニケーションをとっている。 ○ 互いの課題や悩みに気付き、支え合える環境をつくるとともに、積極的に若い教職員を指導的に支援している。	○ 他の教職員の活躍に関わり、適切な助言を行っている。 ○ 人材育成の重要性を踏まえ、教職員の経験に応じた効果的な人材育成の環境づくりに協力している。
	2 マネジメント	タイム・マネジメント、カリキュラム・マネジメント	○ 児童生徒と向き合う時間を確保するために、効率的な業務遂行が必要であることを理解している。 ○ 教育課程の校訓を機能、意義について理解している。	○ 限られた時間の中で、優先順位を決め、計画的に実践を遂行している。 ○ 学校教育目標の達成に向けて、教育課程に基づいて児童生徒の実態に応じた指導に励んでいる。	○ 他の教職員と協力し、効率的・効果的な学校の運営・運営体制の構築に貢献するとともに、教職員全体のワーク・ライフ・バランスの実現を呼びかけている。 ○ 学校や地域の特色を生かした教育課程の編成に当たり、機能的に運営している。	○ 他の教職員の業務遂行に関わり、教職員全体の働き方改革に貢献している。 ○ 学校や地域の特色を生かした教育課程の編成に積極的に参画している。
		学校運営・教育分掌	○ 学校運営に関して、組織的な対応の必要性を理解している。	○ 学校運営に関して、自分の役割や強みを発揮し、学校教育目標の達成に努めている。	○ 学校の状況や課題への対応について理解し、意見を述べ、関係機関や学校教育目標の達成に向けて組織的に行動している。	○ 厚い専力や専門性を発揮し、様々な提案を通じて学校運営に積極的に参画している。
学習指導に関すること	3 教科指導	授業計画	○ 学習指導要領に示された教科等の目標及び内容並びに児童生徒の実態に即した「指導と評価の計画」の重要性を理解している。	○ 教科等に関する専門的な知識・技能を活用し、よりよい学習指導案を明確にした「指導と評価の計画」を作成している。	○ 学校の重点教育目標を踏まえ、創意工夫を凝らした「指導と評価の計画」を作成している。	○ 「指導と評価の計画」の作成について、他の教員に対し適切な助言を行っている。
		授業実施、評価	○ 基本的な指導方法を教科等の特性に応じた指導形態について理解している。 ○ 学習評価の基本的な考え方を理解している。	○ 単元に適した指導形態等を選択し、児童生徒の反応を見ながら多様に応じた指導を行っている。 ○ 学習評価を通して児童生徒の学習内容を評価し、児童生徒の学びの広さと深さを指導に生かしている。	○ 指導方法や指導形態等を工夫し、児童生徒の反応を見ながら、「主体的・対話的で深い学び」を実現指導を行っている。 ○ 他の教職員と連携し、児童生徒の学習状況を把握し、その改善に努めている。	○ 指導方法や指導形態等について、他の教員に対して適切な助言を行っている。 ○ 学習評価の在り方について、他の教員に対して適切な助言を行っている。
		授業改善	○ 授業改善の重点としての「主体的・対話的で深い学び」の実現の重要性を理解している。	○ 日常的に授業を公開し、他の教員や地域の方々との相互参観や授業研究を重ね、児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に努めている。	○ 校外の研究等を活用した「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を行っている。	○ 児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善について、他の教員に適切な助言を行っている。
	4 総合的な学習（探究）の時間		○ 言葉をめぐる対話・他方と関わる学習における時間等の流れを実践している。	○ 探究的な見方・考え方を働かせる創造的・総合的な学習を実践している。	○ 学習課題を学校や地域の実情に応じて設定し、他の教職員と連携して、創造的・総合的な学習を実践している。	○ 総合的な学習（探究）の時間の特質に応じた学習の在り方について、他の教職員に対して適切な助言を行っている。
	5 道徳教育		○ 道徳教育の意義計画及び教育課程全体を通じた指導の必要性を理解している。	○ 教育課題を踏まえ、道徳教育の重要性を実践し、ねらいを明確にした道徳的な授業等を行っている。（義務学校・教育委員会等で道徳教育に取り組んでいる。）	○ 道徳教育の全体計画や道徳科の授業等の年間指導計画の工夫や見直しを組織的に行っている。	○ 家庭や地域社会と連携した道徳教育を推進するとともに、他の教職員に対して適切な助言を行い、道徳科の授業等の充実を図っている。
生徒指導に関すること	6 児童生徒理解		○ 児童生徒理解に関する基礎的な知識を身に付けている。	○ 児童生徒一人ひとりの理解に基づく信頼関係づくりを進めながら、授業や生活の中で児童生徒への指導助言を行っている。	○ 多角的な児童生徒理解に努めるとともに、児童生徒の不安や悩みを聞き取ったり、保護者や関係機関と連携を図りながら、組織の中核となって対応している。	○ 学級等、関係機関と連携を図りながら、児童生徒の成長を等していくとともに、他の教職員に対して適切な助言を行っている。
	7 教育相談		○ 教育相談に関する基礎的な知識を身に付けている。	○ 教育相談に関する基礎的な知識・技能を生かし、児童生徒を指導・支援している。	○ 教育相談に関する幅広い見識と専門性を身に付け、児童生徒一人ひとりの状況や心に応じた指導・支援をしている。	○ 教育相談に関する高い見識と専門性を生かし、児童生徒や周囲の状況を把握しながら、組織的対応している。

大項目	中項目	小項目	ステージ0【理解】	ステージ1【実践】	ステージ2【協働】	ステージ3【リーダーシップ】
生徒指導に関すること	8 いじめ・不登校・問題行動への対応		○ 生徒指導上の問題及び対応の重点を理解している。 ○ いじめに対する基本的な知識を身に付け、いじめ防止の重要性を理解している。	○ 問題を把握し、他の教職員と連携・協働しながら解決に努めるとともに、早期発見、保護者と情報共有に対して事実を応じている。 ○ いじめ防止等の基本的な方針を理解し、いじめの未然防止・早期発見に努めるとともに、組織的な対応につなげている。	○ 組織の中核として、他の教職員と連携・協働しながら、早期発見、保護者と情報共有に向けた取組を推進している。 ○ 組織的な対応の中核となって、いじめの防止及び解決に向けた取組を推進している。	○ 課題の解決に向けて、関係的対応を推進するとともに、他の教職員に対して適切な助言・協働を行っている。 ○ いじめ防止等の基本的な方針を、いじめに係る関係的な対応のもとで、他の教職員に対して適切な支援・助言を行っている。
	9 学級経営		○ 学級経営の仕組み及び効果的な方法を理解している。	○ 学校教育目標や児童生徒の実態を踏まえ、学級（学級集団）集団の長所を把握し、計画的な指導を行っている。	○ 学級教育目標や児童生徒の実態を踏まえ、学級（学級集団）集団の長所を把握し、計画的な指導を行っている。 ○ 学級の集団の特質に応じた学級経営を行っている。	○ 校内における学級（学年）経営の要として、他の教職員に対して適切な支援・助言を行っている。 ○ 学校を強う様々な課について、実践、対話、協働の場設定の強力な仕掛の構築に尽力するとともに、安全管理（危機管理を含む）の現状を学校安全計画・危機管理マニュアル等の必要・改善について検討したりしている。
	10 学校安全		○ 安全教育・安全管理に関する基礎的な知識を身に付けている。 ○ 安全教育・安全管理に関する実践を身に付け、学校内や通学路の危険を観察し、児童生徒の安全管理のために適切に対応している。	○ 安全教育・安全管理に関する実践を身に付け、学校内や通学路の危険を観察し、児童生徒の安全管理のために適切に対応している。 ○ 自校や地域の特色を生かした教育課程の編成に積極的に参画している。	○ 安全教育・安全管理に関する高度な専門性を身に付け、学校内や通学路の危険を観察し、児童生徒の安全管理のために適切に対応している。 ○ 自校や地域の特色を生かした教育課程の編成に積極的に参画している。	○ 人材育成等をされた学校づくりを起案するため、校内起案内容の構築や家庭・地域との連携等において、人材育成の視点に立って指導的な役割を果たしている。
	11 人権教育		○ 基本的人権の尊重を理念について正しい理解と認識をもっている。	○ 基本的人権の尊重を理念について正しい理解と認識をもち、児童生徒一人ひとりのよさや可能性を認め、人権尊重の視点に立って指導している。	○ 学校評価に対するPDCAの役割を踏まえ、学校や学年の課題を把握し、課題解決に向けて人権尊重の視点に立って組織的に取り組んでいる。	○ 組織的・計画的な指導を行うことで、中心的役割を果たしている。
	12 特別活動		○ 特別活動の目標及び内容を理解している。	○ 特別活動の意義を理解し、児童生徒の自主性、実践的な態度を育てようと指導している。	○ 特別活動の意義を理解し、児童生徒の自治的能力の育成を重視した指導を行っている。	○ 組織的・計画的な指導を行うことで、中心的役割を果たしている。
	13 キャリア教育		○ キャリア教育の意義を理解を理解している。	○ キャリア教育に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、個に応じた指導を行っている。	○ 各種体験活動の充実を視野、地域、産業界等との連携協力体制の構築に積極的に協力している。	○ 教育活動全体を通じて、実践的・計画的・組織的に起案する中心的役割を果たしている。
学校教育全体を通じた学習環境に関すること	14 特別な配慮や支援を必要とする子どもへの対応に関すること		○ 特別支援教育やインクルーシブ教育システムの理念、合理的配慮の提供に関する考え方を理解している。 ○ 特別な支援を必要とする児童生徒の多様な教育的ニーズを理解している。 ○ 教職員間の連携協力による支援の必要性や個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成の意義を理解している。	○ 障害等により困難を感じる児童生徒の多様な教育的ニーズを把握し、適切に対応している。 ○ 障害等による困難に応じた学習指導、学級経営の方法を知っている。又は活用している。 ○ 校内支援体制における役割の仕組みや個別の教育支援計画や個別の指導計画の作成について理解し、参画している。	○ 特別な支援教育の視点を取り入れ、自分の学習指導、学級経営・生徒指導の実践を管理し、校内への啓発・助言を図っている。 ○ 特別な支援教育の視点を踏まえた学習指導、学級経営・生徒指導の実践を管理し、校内への啓発・助言を図っている。 ○ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の活用や作成に参画し、校内委員会や事例検討会の企画運営に対し、中心的役割を果たしている。
	15 授業における活用		○ ICTを活用するとともに、教育データの必要性について理解している。	○ 児童生徒の学習の改善を図るため、ICTを教育データを適切に活用している。 ○ 授業を通じ実践するとともに、教育データの必要性について理解している。	○ 学習指導に応じてICTや教育データを効果的に活用するとともに、児童生徒の特別な能力（情報モラルを含む）を育成している。	○ 新たな情報活用に対応しつつ、ICTで教育データを適切に活用し、授業改善を計画的に起案している。
	16 校務における活用		○ ICTを活用するとともに、教育データの必要性について理解している。	○ ICTを教育データを効果的に活用し、校務の改善・効率化を図っている。	○ ICTや教育データを効果的に活用し、校務の改善・効率化を図っている。 ○ 学校経営協議会に参加の上、地域・家庭・関係機関と連携し、連携・協働した取組を推進している。	○ ICTや教育データの総合的に活用を通じて、教育活動の質の向上に積極的に取り組んでいる。 ○ 学校経営協議会に参加の上、地域・家庭・関係機関と連携し、連携・協働した取組を推進している。
	17 家庭、地域・社会、関係機関等との連携に関すること		○ コミュニティ・スクールの意義・役割を理解している。 ○ 地域学校協働活動（地域協働学校・学校支援地域本部）について理解している。	○ コミュニティ・スクールの意義・役割を意識して教育活動に取り組んでいる。 ○ 地域学校協働活動の活用を意識した教育活動に取り組んでいる。	○ 地域学校協働活動を生かした教育活動を企画・立案し、連携・協働した取組を推進している。	○ 地域学校協働活動を生かした教育活動において、家庭・地域との連携・協働した取組を推進している。

2025年度の研修日程

第1回　6月14日（土）13:00～17:00　山口大学

① 研修びらき
山口大学プログラムスタッフ

② 令和7年度山口県教育の重点と教育予算ができるまで
山口県教育庁教育政策課　教育企画班長

③ 山口県地域連携教育の現在地とこれから
山口県教育庁地域連携教育推進課　地域連携教育班長

第2回　8月30日（土）13:00～17:00　山口大学

① 初任・若手教職員（ステージ0・1期）の成長を支えるために
岐阜県教育委員会西濃教育事務所　所長　日比光治

第3回　10月4日（土）　9:30～12:30　山口大学

① 道徳教育の推進とミドルリーダー
香川大学大学院教育学研究科　教授　植田和也

2025年度の研修日程

第4回　10月4日（土）13:30～17:30　山口大学
① コーホートの研修びらき
② 集団・学級づくりの面白さと教員としての関わり
香川大学大学院教育学研究科 准教授 大西美輪

第5・6回 11月30日（日）の予定　山口大学
新しい学びを魅せる教育フェスタ in やまぐち（仮称）への参画
① 会員（現職・大学教職員等）によるブース開設とワーク
② 命のミュージアム in 山口大学
NPO法人 グリーフサポート山口 代表 京井和子

第7回　12月27日（土） 9:30～12:30　セントコア山口
行列ができるかも？の学校法律相談所-Café（現代的課題セミナー）
① 学校の教育活動を法務の視点から探る
いたむら法律事務所 弁護士 藤村亮平

2025年度の研修日程

第8回　12月27日（土） 13:30～17:00　セントコア山口
保護者と集い・交わり・学び合うNITS-Café（現代的課題セミナー）
① 保護者との対話をとおして、学校や教育を考える交流会
山口県PTA連合会役員他

第9回　3月14日（土）10:30～12:00　山口大学
① 1年間の研修を振り返る
山口大学プログラムスタッフ
（大学院「山口県教育の現状と課題」受講者対象 他会員にも公開）

第10回 3月14日（土）13:00～17:00　山口大学
① 企業経営における若手人材への期待、人材育成の実際
日本エアーコンジショナース株式会社 専務取締役 吉野英紀
② これからの教育を動かす皆さん、若手教員への期待
萩市教育委員会 教育長 池田廣司

参考資料

・プログラムの研修スタイルと昨年度の研修実績

このプログラムでは、保健師・看護師・保育士等による「託児サービス」も提供しています。ご利用ください。

「ちゃぶ台次世代コーホート」の研修スタイル

① 講義・演習型研修

教員としての資質能力を高めるため、指導者を招いた講義演習、研究協議や「ちゃぶ台ワーク」等を行う

内容　組織経営とマネジメント、カリキュラム・マネジメント、コミュニティ・マネジメント、教育政策の諸動向と教育施策、リスク・マネジメント、学校・地域の連携・協働、令和の日本型学校教育、新しい学びの推進、人材育成、学習・生徒指導、インクルーシブ教育、ICT活用、保護者対応、ビジネスマナー、人間的素養　等

講師　公立・附属学校・大学教員、企業経営者、行政・NPO指導者、弁護士、医師、施設指導者、県P連役員、人材育成担当者、アナウンサー、歌手、アスリート等

② ちゃぶ台ピア・サポート

個々の教育実践上の悩み、不安、成功体験等について自己開示し、共感的、支持的に理解しながら、課題の解決や仲間意識、連帯感の醸成を図る

③ 指導助言体験・省察型研修

ケーススタディー等での支援者、助言者として、また実践発表者や事例提供者としての役割を果たす中で、自らの学びや経験を深め、リーダーシップの在り方等を体得する

「ちゃぶ台」の精神を生かし、大学教職員も教委担当者も、フラットな関係性で学び、高めあう

2024年度研修の実際

第1回　令和6年　6月15日（土）　13:00～17:00　山口大学

「山口県教育の現状と課題 ～本年度の重点施策～」
山口県教育庁教育政策課教育企画班　班長　今田隆之

「山口県教育委員会による学力向上の取組」
山口県教育庁義務教育課指導班　主査　中野大輔

第2回　令和6年　8月24日（土）　13:00～17:00　山口大学

「リーダーとは～これからの学校におけるミドルリーダーシップ～」
岐阜聖徳学園大学　教授　玉置　崇

第3回　令和6年　10月12日（土）　9:30～12:00　山口大学

「山口への感謝、貢献と企業文化、組織風土の醸成」
あさひ製菓株式会社　代表取締役社長　坪野恒幸

第4回　令和6年　10月12日（土）　13:00～17:00　合同　山口大学

「マンガをとおして伝えたいこと ～ボクらはサブカルチャーで育った～」
漫画家
周南公立大学　特任教授
なかはら　かぜ

2024年度研修の実際

第5回　令和6年　11月　9日（土）　13:00～17:00　合同
長門市「山口県油谷青少年自然の家」（NITSカフェ①）（宿泊研修）
「地域防災力の向上に向けて ～東日本大震災の経験から～」
岩手県立図書館 館長 森本晋也（前 文部科学省安全教育調査官）
「長門市における防災安全教育の実践」
長門市教育委員会、長門市立日置中学校 校長 櫻井敬子

第6回　令和6年　11月10日（日）　9:00～12:00　合同
長門市「青海島共和国」（NITSカフェ①）
「青海島はマグマの博物館 ～防災・安全意識を高めるためにも～」
青海島共和国 国王 濱野達男
NPO法人山口県防災・砂防ボランティア協会 理事 伊藤信行

第7回　令和6年 12月21日（土）　9:30～12:00　合同
山口市「セントコア山口」（NITSカフェ②）
「子どもたちを真ん中において（保護者交流会）」
山口県PTA連合会
役員

2024年度研修の実際

第8回　令和6年 12月21日（土）　13:00～17:00　合同
山口市「セントコア山口」（NITSカフェ③）
「不登校対策のありよう ～多様な子への理解を現場から～」
広島大学大学院人間社会科学研究科 教授 栗原慎二
「小中学校における不登校対応の実際」
山口市立大内中学校 教諭 中川真治
萩市立川上小学校 校長 山本豊三

第9回　令和7年　2月 8日（土）　13:00～17:00
山口大学　合同
「会員による実践・研究成果発表・交流会」
やまぐち総合教育支援センター長期研修教員
ちゃぶ台次世代コーホート会員

特設　令和7年　3月15日（土）　9:30～12:00 山口大学
「1年間の研修を振り返って（省察）」

第10回 令和7年　3年15日（土）　13:00～17:00　合同 山口大学
「教科と探究をどうつなぐか ～対話型論証を中心に～」
京都大学大学院教育学研究科 教授 松下佳代

2024年度研修の実際

NITS・山口大学教職大学院・長門市教育委員会・山口県教育委員会コラボ研修プログラム（NITS-Café）学校連携「学校を核とした地域ぐるみの防災教育カフェ（11.9-10）」
2024.11.16　NITS山口大学センター・山口大学教職大学院

災害大国、日本！ 私たちに何ができる？ 学校で、地域で何ができる？ 子どもたちの命を守るために、教職員に何ができる？ 1泊2日のNITSカフェ@山口県長門市

今年度の「NITS-Café」は3本立て。その1本目は11月9日と10日、長門市（山口県油谷青少年自然の家と青海島共和国）を会場にした「防災教育」のセミナーです。教職大学院・NITS（教職員支援機構）山口大学センターと長門市・山口県教育委員会が主催する今回の「NITS-Café」には、県内各地から、延べ人数で、学校関係者（教職員、学校運営協議会委員）41人、学生25人、指導者5人、教育委員会関係者3人、施設職員4人、大学教職員16人の94人が参加してくれました。

やっぱり……「カフェ」はいいですね。長門市内からご参加の先生のコメントには、「一番心に残ったことは、NITS カフェの研修の在り方、スタイルです。学生、現役教職員、県・市教委関係者や地域の方々が、共に学び、講義やプレゼンを聞いた後に対話する場があって、大学の先生もグループに入り、名前を呼んで話しかけ、研修に温かく迎えてくださったことも嬉しかったです。ありがとうございました。また一緒に学ばせていただける機会がありましたら幸いです。」とありました。

心地よい BGM が流れ、気の合う仲間と「お茶」している感覚、それでいて大切な「学び」があって「元気」になる感覚。

2日間の「NITS-café」の概要を報告します。

11月9日（土） 山口県油谷青少年自然の家

開会行事

「ご来店ありがとうございます！」で始まった山口大学教職大学院（大学院教育学研究科教職実践高度化専攻）の佐々木司専攻長の開会挨拶に続いて、こちらは「ようこそ！油谷へ！」で、会場の山口県油谷青少年自然の家の田村洋子所長から歓迎挨拶をいただきました。

キリリとした空気感とホンワカした温かさの中、セミナーがスタートしました。

講演 学校や地域における防災教育のあり方 岩手県立図書館 館長 森本晋也 さん

東日本大震災前に釜石市立釜石東中学校で防災教育に、震災後には岩手県教育委員会で復興教育に、そして文部科学省では安全教育調査官として学校安全全般に携わってこられた森本晋也先生。「事件や事故、災害が起きてから学校安全に取り組むのではなく、普段から学校安全に取り組むこと、学校を核として地域ぐるみで取り組むことや学校安全を見直して実効性を高めることが大切！」と教えていただきました。森本先生、遠く岩手からのご来県、中身の濃いご講演、本当にありがとうございました。

参加者のコメントから

・東日本大震災については、資料や動画等を見たり研修の中で取り上げられたりしていたが、実際にその場で対応をされたり、その後について調査されたりしてのお話は大変貴重であった。「防災」を考える時の学校の在り方について再度考え直す機会となった。

「山口県は地震等の災害が少なく津波の心配もあまりない」と思われがちで、自分自身もそのように感じてきたが、そのような油断が一番危険である。子どもたちの命を守り、地域の核となる学校の存在を考えると、日ごろからの訓練や意識の転換が今後の課題と感じた。「自分の身は自分で守る」と発言し、実際に津波の被害にあった際にも一人で避難した子、それを信じて迎えに行かず、避難先に向かった家族。そのような意識をもてる児童を育てたいと思った。（小学校　教諭）

・心に残ったのは、「防災で大事なのは日頃の生活」ということです。「フューズフリー」という言葉を初めて知って、日常の習慣や生活が非常時に生きて

第5回@油谷青少年自然の家

NITS・山口大学教職大学院・山口県教育委員会・山口県PTA連合会コラボ研修プログラム（NITS-Café）学校連携「現職教員と教職志望学生が保護者とともに創る協働セミナー」
2025.1.4　NITS山口大学センター・山口大学教職大学院

子どもを真ん中にして、学びと育ち…からの～っ「自立」を一緒に応援する関係づくり！ 教職員（学校）と保護者（家庭）は共に歩むパートナーを実感できたCaféでした！

今年度2回目の「NITS-Café」へ…「本日もご来店ありがとうございます。朝から美味しい珈琲、入（淹）れております… 空いているお席へどうぞ… ごゆっくり！」

12月21日（土）、山口市「セントコア山口」での Café は、昨年度もお客さまから大好評で、「今年も絶対にやって！」と言われていた「保護者の皆さんと語りあう」交流の Café ですよ、ということで、メインゲストの保護者の皆さま15人に、学校の先生方 23 人、教育委員会事務局の先生方 4 人、これから先生になろうという学生さん 50 人、大学関係者13人と遠く茨城県つくば市からご参加下さった教職員支援機構（NITS）の先生方 4 人という109人の皆さまにご来店頂きました。「本当にありがとうございます。お店も一杯です。」

ある時は、心地よい BGM の中でお茶しているようにに… ある時は、まるで山口大学「ちゃぶ台ルーム」に居るかのように… 教育や教職を語り、一緒に考え、成長しあえる学びと変容、成長の「場」が今日の Café、とっても素敵な一時でした。「NITS-café（現職教員と教職志望学生が保護者とともに創る協働セミナー）」の概要を報告します。「本当にたくさんのお客様にご来店頂きました。ありがとうございました。」

開店行事

まずは「マスター（山口大学大学院教育学研究科教職実践高度化専攻：いわゆる教職大学院）」の佐々木司専攻長から「開店のご挨拶（教職大学院の歩み、NITS や山口県 PTA 連合会との関わり等について敬意と謝意を込めて）」がありました。

続いて、「土曜日は仕事なんだけど抜けてきた(^^)」…！本当にお忙しい中、ご来店頂いた保護者（山口県 PTA 連合会役員の皆さん）をご紹介しました。お名前と所属のみ、敬称略で恐縮です。

松田龍佳（大寧中）、西川仁了（萩東中）、清口憲治（伊陸小）、佐伯弘明（白石中）、安堂幸也（高森小）、廣兼愛子（椿東小）、遠見典介（末武中）、藤井崇史（沼城小）、清西重香（鴻南中）、船　雅美（由宇小）、伊藤直弥（向井小）、金子賢二（大歳小）、角川早苗（山口高）、松原奥奈美（西京高）、辻本千夏（事務局長）の皆さんでした。 本当にご多用にもかかわらず、駆けつけて頂きありがとうございました。感謝しております。

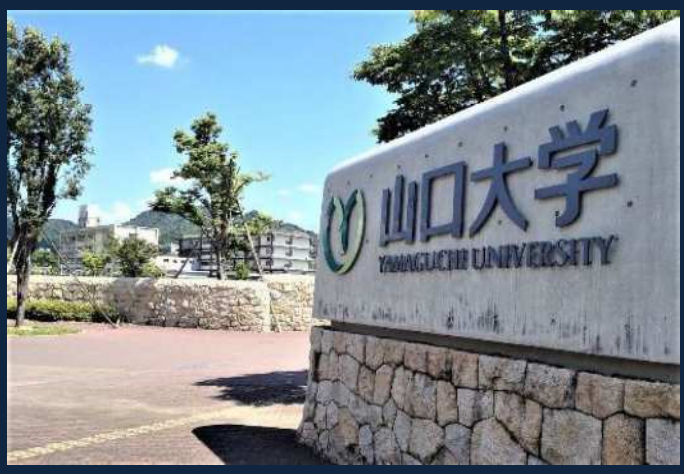
カフェ 子どもたちのために ～学校と家庭の連携・協働と互いの役割～

今回の Café は「宿題（事前探求課題）」がありました。さすがです。ご来店のお客さま、みんなカンペキに仕上げてのご来店、感謝です。

Café のおよその流れは5つの phase から。

①「カフェの仲間になる」
②「学生から疑問に、現職教員と保護者が一緒に考える」
③「学校と家庭の連携の様子、自分の推しの取組を紹介する」
④「連携・協働のアイデアを提案する」
⑤「シェアする」　でした。皆さんの感想を「振り返り」から紹介します。

第7回@セントコア山口



事務局　コーホート　藤上真弓　933-5399
fujikami@yamaguchi-u.ac.jp

Advanced　霜川正幸　933-5458
m-shimo@yamaguchi-u.ac.jp